

会社法人等番号：	0124-05-004289
----------	----------------

事業報告書

2019年2月6日から2019年6月30日まで

住 所 : 東京都調布市国領町1-25-20-509
名 称 : 一般財団法人宗像協会
代 表 者 名 : 田中真奈

1. 事業概況

拠出金：	1億5千万円	初年度支出：	9,803,991円
------	--------	--------	------------

役員等

	役職名	氏名	常勤非常勤の別
理事	代表理事	田中真奈	常
	理事	二階堂有子	非
	理事	田中和子	非
監事	納野和広		非
評議員	評議員	穂満将徳	非
	評議員	松浦由佳子	非
	評議員	田中誠	非
事務局	事務局長	田中真奈	常

支援事業

事業の名称	実施団体名	実施地域	支援額
人身売買からの少年の保護	Nedan Foundation	インド・アッサム州	2,006,500円
人身売買から保護された少女の暮らすホーム運営	Nedan Foundation	インド・アッサム州	
看護助手養成と学校を中退した少年への研修事業	Nishtha	インド・カルカッタ	1,006,500円
LGBTI コミュニティー支援	CHRR	マラウイ・リロングウェ	2,008,100円

LGBTI 難民支援	CHRR	マラウイ・リロング ウェ	
ユース・インパクト・ラボ の運営	YouthFirst	マダガスカル・アン タナナリボ	1,001,700 円
安全な飲料水の提供事業	えひめグロー バルネットワ ーク	モザンビーク・モア ンバ郡	2,000,000 円
村の生活改善事業	えひめグロー バルネットワ ーク	モザンビーク・モア ンバ郡	
合計			
8 事業	5 団体	4 カ国	8,022,800 円

2. 理事会・評議会

第一回臨時評議会	
日 時	2019年2月24日
議 題	宗像財団設立理事と監事の選任
	指定財産の運用について
	今後の連絡方法について

第一回臨時理事会	
日 時	2019年3月5日
議 題	事務局長の選任
	監事への報酬
	出張規程の承認
	支援団体の選定基準
	初年度予算と支援金額
	次回の定時理事会及び評議会の日程

3. 国内外の個人や団体への支援（定款目的①）

2019年3月5日の第一回臨時理事会において、財団の目的の一つが貧困削減であることから、世界の貧困層のうち85パーセントが暮らしている南アジアとサブサハラ・アフリカを2018年度の支援対象とすることが報告された。インドの支援先については財団設立準備として2018年12月から1月にかけて訪問した団体より、2団体3

事業と事業実施契約書¹を締結して、送金を行った。インド北東部のアッサム州で人身売買の課題に取り組む Nedan Foundation からは、保護された少女たちへのカウンセリングやライフスキル研修が行われたことが報告された²。またカルカッタで活動する Nishtha からは、対象となる地域で学校を中退した少年へジェンダー研修を 1 回、ミーティングを 2 回行い、20 名の少女が看護助手の研修を受講し始めたことが報告された³。

サブサハラ・アフリカ支援についてはアフリカに知見のある開発援助関係者 4 名との打ち合わせ後にマダガスカル・マラウイ・モザンビークを対象国として選定し、2019 年 4 月 17 日から 5 月 7 日までの 21 日間で代表理事の田中真奈が 16 団体を訪問した⁴。支援先選定にあたっては、以下の 5 点を基準とした。

- ✓ 財団の目的（女子教育、貧困削減、ダイバーシティー、マイノリティー保護）に合うプロジェクト
- ✓ リーダーの人柄とコミットメント
- ✓ 裨益者の数
- ✓ 3 年の支援を卒業した後の継続性
- ✓ 報告書作成能力

今年度の支援先として、3 団体 5 事業と事業実施契約書を締結して、送金を行った。うち 2 団体（YouthFirst、CHRR）からは今年度の事業実施計画書と予算が送られてきた⁵。

また以下の事業については、宗像財団設立者である宗像康子から託された個人資産より寄付を行った。

事業の名称	実施団体名	実施地域	寄付額
ケニアの LGBT 難民支援	一般社団法人 Rainbow Refugee Connection Japan	ケニア・ナイロビ	50 万円

¹ 事業報告の付属明細書資料①宗像財団事業実施契約書ひな形

² 事業報告の付属明細書資料②Quarterly Report from Nedan Foundation

³ 事業報告の付属明細書資料③Quarterly Report from Nishtha

⁴ 事業報告の付属明細書資料④アフリカ出張行程表及び出張報告書

⁵ 事業報告の付属明細書資料⑤Concept Paper and Budget

ロヒンギャ難民ホストコミュニティ支援	IC Net Limited	バングラディッシュ・コックスバザール	50万円
女性障がい者の当事者団体運営支援	モヒラクラブ	バングラディッシュ・マイメイシン	65万円
合計			
3事業	3団体	2カ国	165万円

4. 国内外での啓発活動（定款目的②）

2019年2月末より財団ホームページ（www.mnkt.org）と Facebook ページ（www.facebook.com/munakata.org）を立ち上げて、広報活動を行っている。財団ホームページは、現在 Google 検索において「宗像財団」「Munakata Foundation」のどちらかで検索してもトップに表示される。Facebook のフォロワーは2019年6月20日時点で241名だが、投稿内容を個人や支援団体がシェアをしているため、最大で1565名にリーチした。2名のインターンを受け入れている東京外国語大学現代アフリカ地域研究センターもインターンの活動紹介などをセンターのページでシェアしている。

また宗像財団については2019年4月6日に国際基督教大学99年度卒業生同窓会において1時間の報告とパネルディスカッションを行い、80名を超える参加者に団体概要を配布した。6月4日には国際基督教大学のアジア研究の授業において、40名強の学生に団体紹介を行った。

LGBT 難民支援については、前述の一般財団法人 Rainbow Refugee Connection Japan が Change.org で始めた「第三国定住というかたちで、LGBT 難民を受け入れたい」という署名キャンペーンに賛同している。

今後の予定としては、2019年8月27日より開催される第7回アフリカ開発会議（TICAD7）のサイドイベントにおいて、200名定員の会場にて「アフリカにおけるダイバーシティとインクルージョン」というテーマでパネルディスカッションを実施予定⁶。前述のバングラディッシュ事業実施団体の IC Net との共同開催。

5. 国内外での支援を募る募金活動（定款目的③）

⁶ 事業報告の附属明細書資料⑥TICAD サイドイベントパンフ原稿

募金を集めるための振替口座をゆうちょに設けたが、振込取扱票の印刷などは2019年7月以降に発注予定。またインターンのリサーチで他援助団体が広く PayPal 決済を利用していることから、7月以降に PayPal のアカウントも作成予定。

募金を集めるにあたって、活動実績や団体名の認知度の向上がまず必要となるため、2018年度は支援先と団体を選定して活動実績をあげることに注力した。

6. インターンの活動

ルワンダの PIASS（プロテスタント人文・社会科学大学）より東京外国語大学へ交換留学で来ているムレカテテ・シュクルさん、エリー・ロドリグ・イチャーツェさんの2名を2月中旬より宗像財団のインターンとして迎えた。PIASSで2人の教官を務めている佐々木和之さんとは2007年のルワンダ滞在時から交流がある。それぞれ旧ベルギー領だったブルンジとルワンダ出身のため、フランス語にも精通しており、財団ホームページのフランス語ページ作成やフランス語圏のマダガスカルでのアポイントメント取りなどでも活躍してくれた。2名は2019年7月16日にルワンダに帰国予定。

日付	活動・プレゼン内容	成果品
2月12日	シェアハウスでの顔合わせ	
2月28日	マダガスカル・モザンビーク・マラウイ支援調査	支援先候補リスト
3月7日	「日本に来て驚いたこと」プレゼン 支援実施団体からの報告書フォーム（案） 支援実施団体からの経理報告書フォーム（案）	プレゼン資料 四半期報告書 経理報告書
3月18日	ルワンダ・ブルンジ各国についてのプレゼン	プレゼン資料
3月28日	武蔵大学訪問 各国紹介プレゼン	撮影ビデオ
4月4日	マダガスカル訪問先アポ取り（Skype 電話）	
4月12日	Royal Host で動画編集についての依頼	
5月10日	インド・ラジャスタンの動画編集（1分×2本）	動画2本
5月24日	援助団体の動画活用（YouTube）についての調査	プレゼン資料
5月31日	援助団体の YouTube 拡散のための対策調査	プレゼンメモ
6月7日	援助団体の募金活動（寄付の方法）調査	プレゼン資料 マトリックス
6月14日	仏英翻訳ソフト・アプリの調査 YouthFirst からのコンセプトペーパー翻訳	プレゼン資料 翻訳資料
6月28日	東京外大留学で学んだことのプレゼン	ビデオ撮影

7. 今後の課題

2019年3月5日の第一回臨時理事会で各理事より以下のようなご意見を頂いた。2019年度はこの内容について取り組んでいきたいと思う。

(田中和子理事) 財団の理念を明確にしていく必要がある。女子教育から貧困に行くのか。多様性の中に貧困を入れていくのか。現在は漠然としている。4つ並んでいると財団として何をしたいのかわからない。色々な財団があるなかで、この財団は何をしたいのか、というのが見えるようにする。時間をかけて柱をしっかりとる。広報でHPやFacebookを出すときに、柱が顔になる。ぼんやりしたまま何年も置いておけない。中身については検討してお知らせしますよ、と告知する必要がある。

(二階堂有子理事) インドを一緒に周った折に、小規模なところでインパクトを出したい、という田中代表理事の意向は感じているので、そこが打ち出せると良い。効果と結果の見える化。ネットワークや理念で支援を集めるのではなくて、大きな団体ではなく小さな団体として着実に進んでいることをアピールする。ハードコピーの広報は考えていないのか？

別添書類：事業報告の付属明細書